

いよいよ、来月から中学入試が本格的に始まります。志望校合格という目標に向かって本気で努力を続けてきた12歳の受験生にとってはじめての、そして本当に大きな舞台となります。早稲田アカデミーでは、受験生全員の志望校合格を信じ、最後まで支え、後押しをさせていただきます。

### 《まもなく、来春の中学校入試が始まります》

すでに帰国生の入試は始まっていますが、あと2週間ほどで、中学入試が本格化します。1月の前半には埼玉県の私立中入試、後半には千葉県の私立中入試、2月1日に東京都と神奈川県の私立中入試がスタートします。第一志望校合格を目指し、一生懸命努力を重ねてきた小学6年生が、いよいよ成果を發揮するときです。受験はまだまだ先、とお考えのお子様も「先輩」たちの背中を見て、受験を自分事としてとらえるようになっていただきたく思います。

早稲田アカデミーでは、御三家中や早慶中をはじめとする難関校の合格者数を年々伸ばし続けてまいりました。来春も過去最高の合格実績を出せるよう、最後の仕上げの時期を迎えていきます。来春の入試の結果にも、どうぞご期待ください。



### 《新学年を迎えるにあたり》

小学校では4月から新学年に進級しますが、早稲田アカデミーでは2月から新学年になります。お子様の気持ちとしては、新学年を塾で先取りして体験できることはうれしいながらも、なかなか実感が湧いてこないものです。しかし、塾では学年が上がると、通塾日数が増え、土曜日・日曜日の講座が始まるなど、お子様への負担は大きくなります。2月からはしっかりと気持ちを切り替えて、新学年の勉強を確実に進めていくことが大切になります。そのためにも、冬期講習会と1月の授業で現学年の学習内容を復習し、新学年に繋がる確かな土台を築きましょう。また、新しい生活に慣れていくには時間も必要です。まず学習サイクルを確立させることを目標に、日々の学習を計画的に進めていきましょう。

### 冬期講習会中に進めておきたい学習内容

[国語]	[算数]
冬期講習会では、『漢字とことば5年下』の既習範囲の漢字を総復習します。かなりの量になるので、講習会前や中休みのタイミングを利用して、効率良く学習を進めましょう。	冬期講習会で扱うテーマはいずれも入試頻出なものばかりです。冬期のうちにしっかりと身に付けるためにも授業の復習を丁寧に行いましょう。
[理科]	[社会]
中和や気体の発生に関する問題は入試でも頻出です。計算問題を中心に今一度、『予習シリーズ』や『練成問題集』などを見直し、やり残しや苦手に感じているところがあれば、この機会に取り組んでおきましょう。	歴史の学習ではこれまで以上に整理していくことが大切です。『予習シリーズ』の要点チェックや『演習問題集』の「まとめてみよう！」を中心に、「誰が何をしたのか」「いつ何が起こったのか」を整理していきましょう。

# 冬期講習会の学習内容とポイント

第1回	物語・小説（1） 表現技法／和語
第2回	物語・小説（2） 手紙文の約束事／慣用句
第3回	説明文・論説文 単語の学習（助動詞・助詞）／外来語
第4回	随筆文 接続関係／三字の熟語・四字の熟語

冬期講習会は2学期の復習が主な内容です。5年生後半になると、説明的文章・文学的文章のいずれにおいても、「意味段落分け・場面分け」「要旨・主題」等、文章全体を見渡す視点が必要な設問が増えているので、冬期講習会でも重点的に扱います。

また、第4回の授業では、『予習シリーズ5年下』第17・18回を扱います。

## 【学習のポイント】

### 記述力の向上を図りましょう！！

講習会では、通常授業より時間が若干長い分、記述問題にもじっくり取り組んでいきます。記述力向上のためには、「自力で書けるようになるまで書き直し続ける」ことが何よりも大切です。



第1回	力学
第2回	電流
第3回	光と音
第4回	化学変化

冬期講習会の授業では理論系単元を中心に、宿題では授業の復習にあたる演習と、人体・環境・大地・太陽などの知識系単元の演習を行っていきます。理論系単元の実力を向上していくためには、しっかりと腰を据えて問題と向き合っていく必要があります。この冬期講習会を通じて、問題を解き進めるための初動にあたる処理方法や、典型的な問い合わせを解き進めるためのポイントを再確認していきます。発展的な内容であっても、基礎的な解法を組み合わせていくことで正解までの道筋が見えるようになることがほとんどです。6年生に向け、まずは基礎的な解法を定着させていきます。

## 【学習のポイント】

### 表やグラフを使った計算問題を得意に！

冬期講習会では化学・物理分野の計算問題を中心に演習を行います。特に「水溶液の性質」「電流のはたらき」に関する単元は重要になります。表やグラフを使った問題に強くなることは、組分けテストばかりではなく、入試でも大きな武器になります。積極的に取り組んで、得意な単元にしていきましょう。



第1回	和と差・数の性質
第2回	割合と比
第3回	立体図形(シリーズ⑦第17回範囲を含みます)
第4回	速さ(シリーズ⑦第18回範囲を含みます)

冬期講習会では『予習シリーズ5年(下)』第11回以降の内容を復習するとともに、「いろいろな速さ」の先取り学習を行います。「いろいろな速さ」の中には、流水算、通過算、時計算など、様々な内容が含まれ、さらに問題によっては2学期に学習してきた「比」が絡できます。「速さ」は入試において多くの受験生が苦戦する受験算数の“要”ともいえる分野です。もちろん小6でも繰り返し扱っていきますが、この機会に、まずは基本的な考え方をしっかりとマスターしておきましょう。

## 【学習のポイント】

### 正確な図・使える図を描きましょう！！

立体図形、時計算・通過算、容器と水量など、5年生の締めくくりの単元は、どれもものの動きや変化をとらえることが大切なものが中心です。その中でも必要なことが正確な図を描くことです。メモ書きのように図を描いたり、イメージするためには図を描いたりするのではなく、問題を解くために必要な図を描きましょう。よって、図は大きく、丁寧に描くことを心がけましょう。



第1回	鎌倉時代～安土・桃山時代
第2回	江戸時代①
第3回	江戸時代②～明治時代①
第4回	明治時代②～大正時代

冬期講習会では、2学期に学習した歴史分野、特に鎌倉時代以降の歴史を中心に復習します。地理分野の学習では一つひとつの知識がそれぞれ独立していることが多いのですが、歴史分野では「原因→結果」の関連性をしっかりと学習しなければ、頭の中でそれぞれの知識がバラバラになってしまい、流れとしての知識の定着が難しくなります。そして、関連付けがうまくできるようになれば、より上手に覚えられるようになります。冬期講習会では前述のことをふまえながら歴史分野の知識の定着を図ります。

## 【学習のポイント】

### 歴史を縦と横から学習しましょう！

上記のように歴史は「原因→結果（縦のつながり）」が重要です。しかし、まず「問われている内容の時（時代）」を特定しなければ歴史の問題は解けません。例えば「二毛作が始まる（鎌倉時代）」「二毛作が広まる（室町時代）」のような各時代を特定する言葉が重要になります。頭の中に時代ごとの引き出しをつくり、そこに各時代の特色を示す言葉をまとめて（横の整理）おきましょう。そこから時の流れ（縦の整理）に入ります。

